基調講演

広島大学文書館の目指すもの

―広島大学文書館の現在とこれから―

小池　聖一

はじめに

広島大学文書館は、広島大学の「文書館」（ぶんしょかん）と呼びます。

京都大学のように「大学文書館」としなかったのは、新制広島大学設立の理念、初代学長森戸辰男先生による「森戸三原則」に準拠し、「自由で平和な一つの大学」である広島大学が、中・四国の中核大学として、また、地域性・国際性のある大学の「文書館」として機能することを念頭に置いたためです。広島大学五十年史の編纂が継続中であるにもかかわらず、広島大学の「文書館」として設置されたことは、まさに、新制広島大学建学の精神を継承していく、国立大学法人となった今も広島大学が発展していくことを明らかにし、個性化を追求していく基盤をつくったことを意味します。牟田学長が設置された広島大学文書館は、広島大学が果たした最大の説明責任であると言うことが出来ます。

広島大学文書館は、広島大学の公文書・法人文書を整理・保存・公開することで中・四国の中核大学としての自負のもと、地域および国際的にその存在を明らかにする説明責任を果たし、「自由で平和な一つの大学」として、また、地域貢献を果たし、国際社会に発信する基盤整備をおこなう組織なのです。

広島大学文書館は、大学史資料室と公文書室という二室体制を採用しており、その組織を通じて、平成一六年四月一日付で設立と同時に制定した「広島大学文書館規則」の第二条で目的を次のように規定しています。

（目的）

第二条　文書館は、広島大学（以下「本学」という。）の学内共同教育研究施設として、本学にとって重要な文書の保存・整理並びに大学の歴史に関する記録の収集・整理・保存及び公開を行うとともに、関連する分野の教育研究を行うことを目的とする。

広島大学文書館は、広島大学に関連する資料の収集整理・保存・公開を通じて広島大学の事務機構における合理化や、広島大学史を中心とする研究・教育に寄与する機関なのです。

このことは、第一に、広島大学の公文書、現在は法人文書の保存・整理を行うことが最重要な業務であることを意味しています。最終的な文書管理・保管機関として大学行政を中心とする文書類を後世に残すことが第一の使命なのです。このことが、結果的に、対外的な説明責任を果たすとともに、蓄積された先例として大学行政の政策立案に寄与し、政策立案の合理化につながることを文書館としては望んでいます。第二に、広島大学の公文書を一般に公開し、研究・教育等の利用にも供することは、広島大学の説明責任に寄与する情報公開機関としての意味を持っています。第三に、広島大学文書館それ自体が、「学内共同教育研究施設」として、積極的に広島大学関係の史資料を収集し、その整理・保存・公開を通じて教育・研究の基盤整備を行う組織であるということです。そのうえに、第四として、広島大学文書館を基点とする研究システムを立ち上げます。さらに、第五として、学内構成員に対しては、総合科目「広島大学の歴史」を提供。第六に、オープンキャンパスなどでの展示を通じて、未来の広島大学学生に広島大学を紹介し、第七に同窓会等に対して出張展示などをおこなうことに

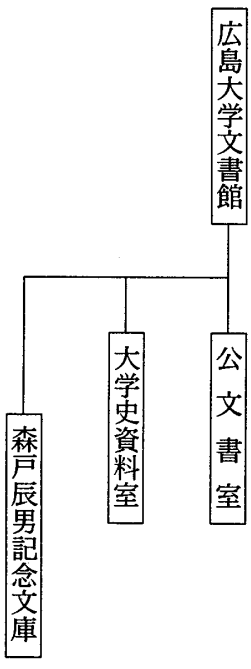
よって卒業生・同窓会と現在の広島大学との間の接点を提供しています。そのうえで、第八として、地域に対しても、最初の被爆地としての広島の特性および、現在の所在地・東広島を基盤とする賀茂台地に根ざす貢献を行っていきたいと考えています。

すなわち、広島大学文書館は、広島大学への入口および、広島大学における教育・研究、そして、出口に相当する卒業生関係諸団体に至るまでを包括的に対象とする組織なのです。

以上のことは、本日午前一一時、平成一六年一〇月七日、広島大学文書館におきまして森戸泰様をはじめとするご遺族の方々にお集まりいただき、除幕式をおこないました「森戸辰男記念文庫」の存在を通じて、新制広島大学初代学長森戸辰男先生の理念、森戸三原則のうち、まず、「自由で平和な一つの大学」を具体的に明らかにするものと考えています。分散キャンパスに悩まされた広島大学が現在の東広島・西条キャンパスを中心として学部等の部局割拠性を打破して「一つの大学」となったことを文書館は、文書館それ自体と、この「森戸辰男記念文庫」の存在を通じて証明するものと考えております。また、「自由」と「平和」に関する実態分析を行う基盤を「文書」を中心とする史資料を通じて提供する組織であると考えております。さらに、「中・四国の中核大学」としての責務を情報公開によって果たすとともに、各種事業によって第二の地域貢献を行い、また、外に発信することによって第三の国際性も得たいと考えております。すなわち、広島大学文書館は、広島大学建学の精神を保持するとともに、広島大学が不断に理念の確認を行う、その中核的組織であるとの自負を有しております。

そのうえで、広島大学文書館としては、以下、具体的に文書館の組織に応じて述べる三つの具体的な戦略を有し、現在、各種事業を展開することによって、森戸三原則から発展した広島大学の理念を具体化させることを通じて、学問の府・広島大学に貢献するとともに、地域社会や国際社会にも貢献していきたいと考えております。今回のシンポジウムにおきまして「学問」と「社会的貢献」と題しました理由もここに存しているのであります。

（広島大学文書館組織図）



一、公文書室を中核とする戦略

広島大学文書館は、国立大学法人広島大学の人事・総務担当副学長のもとにある唯一の学内共同教育研究施設であります。人事・総務担当副学長という旧事務局長組織のもとに文書館を設置した最大の理由は、なによりも情報公開社会のなかで文書管理運営組織における最終管理機関であるという立場からです（情報公開は、人事・総務担当副学長の管轄下にあります）。結果として、法人文書の円滑な移管が得

られることと思っています。そのうえで、公文書室としては、法人文書管理規程の制定にかかわるとともに、内規を設け、円滑な法人文書の移管システムを作るよう努力しております。

現在、最大の関心は、統合移転関係文書と新規研究科申請関係等の組織改編関係文書および国立大学法人化過程文書の保存・保管であると考えております。現在までのところ、移転関係文書について旧学長室関係のものについては、移管が決定しておりますが、その他のものについては保存期限との関係上、未だ移管はありません。しかし、今後、半現用記録・文書についても移管を積極的にうけるように努力していきたいと考えています。

と同時に、公文書室では、情報公開法のみならず平成一七年四月一日施行の独立行政法人個人保護法に対応すべく、組織共用文書の作成法についてのマニュアルを作成しております。これにより、法人文書管理の最終管理機関としての位置づけを行うとともに、執務の合理化に寄与し、最終的な法人文書の移管を円滑に行えるよう環境の整備に腐心しております。

すなわち、第一に、広島大学文書館は、広範に存在する法人文書の最終的な整理・保存機関であり、移管を受けた文書群を目録化することによって、現在の大学行政に寄与し、同時に、一般にも基本的に公開することによって対外的な説明責任を負う機関となると考えています。今後、円滑な移管と同時に、電子文書化等にも対応し、来るべき時代にも備えるよう努力しているところです。

本事業は、余り、表には出ない、実際には地道な作業の連続ですが、大学内外からの照会や、一般の方々の史料閲覧作業等に従事することによって、また、それが円滑におこなえるよう努力していきます。この地道な作業こそが、広島大学文書館の基幹業務であると考えております。

二、大学史資料室を中心とする戦略

大学史資料室では、本学法人文書以外の本学教職員、卒業生・同窓会、関係者等の個人文書を中心に所蔵し、収集した文書・資料を基盤として教育、研究、展示等に利用し、新入生から在学生・教職員までの大学構成員、そして、卒業生・同窓会、地域を含む一般の方々に対して、各種のサービスを提供することで、広島大学との接点を維持・発展させていくよう努力しております。

1　大学史関係資料の収集・整理、公開事業の展開

広島大学五十年史編纂事業および同二十五年史編集事業で収集した資料群を中核としながら、現在まで、主なものとしては下記の資料群の収集を果たしております。

①森戸辰男関係文書

新制広島大学初代学長森戸辰男が所蔵していた資料群で、広島大学に寄贈された文書群とご遺族森戸冨仁子氏より寄贈された文書群とで構成されています。総点数は、約二万三千点。広島大学教官有志で構

成された森戸文書研究会により整理され、現在、文書館が所蔵しております。森戸文書については、他に、森本家から横浜市に寄贈された文書群が存在し、これについては、横浜市との間で協定書締結交渉をおこなっており、長期貸出による文書の集積を図っております。

② 旧制広島高等学校関係資料

これは、広島高等学校同窓会を中心に収集された文書群で、文書館開館前、広島市中央図書館より移管いたしました。

以上のものの他に、現在、下記の資料群移管が行われる予定であります。

③ 竹下虎之助関係文書

竹下虎之助氏は、元広島県知事で、現在、下記３のオーラルヒストリーを行っております。その過程で、同氏が所蔵している広島県政関係文書の移管をうけて、これを整理・保存・公開する予定です。竹下氏は、広島大学統合移転時の副知事であり、その計画・立案の中心人物であり、同時に広島県政の発展に多大なる貢献した人物であり、広島大学における地域貢献事業としての中心的な研究基盤を提供するものと期待しております。

④ 故大牟田稔氏関係資料

故大牟田稔氏は、広島大学文学部出身の中国新聞記者で、論説主幹を務め、退社後は、財団法人広島平和文化センター理事長を歴任されました。同氏の文書群は、主に、原爆小頭症関係の文書、その運動体である「きのこ会」関係文書を一つの核としています。本事業は、世界はじめての被爆地・広島という地域性のなかで、戦争被害とその後の運動、また、日本における平和構築のあり方を問う、重要な資料であると考えています。広島大学文書館としては、同資料の整理・保存・公開およびご遺族、学外者も含めての研究組織を通じて事績を明らかにするとともに、広島における「平和」を考える一つの拠点を形成するものでもあると考えています。

以上のほかに、広島大学関係者の資料として、白井成允氏旧蔵文書等についても収集しております。

また、前広島市長平岡敬氏旧蔵の朝鮮人・韓国人被爆者関係資料についても、広島大学原爆放射線医科学研究所川野徳幸助手を中心とする地域貢献プロジェクトのもと、その整理を担当しております。なお、本件、平岡氏旧蔵文書は、原爆放射線医科学研究所に所蔵される予定です。このように、平岡氏および大牟田稔氏関係文書については、今後も広島大学内の原爆放射線医科学研究所および広島大学平和科学研究センターと協力して事業を展開していく予定であります。

なお、同時に、今後も積極的に本学関係者の資料収集を図っていく予定であります。

2　学外組織との共同事業

① 三木武夫文書の整理、明治大学大学史資料センターとの共同事業

明治大学出身の内閣総理大臣三木武夫氏の関係文書の整理・保存・

公開事業について、明治大学を中心とする事業に参画しています。大学における史料保存機関が協力関係を結んで共同事業を行うのは、初めてのことであり、今後、全国大学史資料協議会等を通じて、広島大学文書館としても積極的に参加していきたいと考えています。

②広島県竹原市への池田勇人記念館構想の提示

広島県が生んだ内閣総理大臣池田勇人関係文書の整理・収集・公開・保存機関の設立を提案しているところです。

3　オーラルヒストリー事業

また、文書のみならず、関係者の方々にオーラルヒストリーを行うことによって、資料の集積を図っています。現在、以下の二つのオーラルヒストリーを行っています。

①竹下虎之助氏オーラルヒストリー（前広島県知事）

現在まで、一九回を実行し、来年六月頃に関係資料を含めた報告書の刊行を予定しています。

②平岡敬氏オーラルヒストリー（前広島市長）

現在まで、四回を終了しています。本事業は、広島大学の地域貢献事業であり、今年度中に報告書を刊行する予定です。

以上のほかに、文書館の研究会システムを利用して、山下彰氏（広島大学国際協力研究科初代研究科長、現北九州大学北東アジア研究所長）をおこない、讃岐照夫氏（前東広島市長）のインタビューを企画しております。

4　地域貢献事業

公開講座「我が家の近代史」

現在、総合科学部布川弘助教授、文学部勝部眞人教授、教育学部中山富廣教授の三先生のご協力を得て、文書館では、公開講座「我が家の近代史」を企画しております。これは、東広島市を中心とする地域の方々に、自らの「家」の歴史を学ぶだけでなく、資料の整理・保存方法から、自らの「家」の歴史に関する調査方法を公開講座という形態でお教えし、資料の重要性と地域との連関を自ら「家」の歴史を通じてご自身でまとめられるようお手助けし、広島大学文書館が一つの地域資料情報の集積地となることで、地域に対する関心とそのなかで生きる広島大学を実質的な方法で広報していこうとする企画です。

三、全館的（全学的）事業と戦略

1　教育・研修

①教　育

現在、総合科目「広島大学の歴史」をおこない、広島大学の歴史を通じて在校生に対して、広島大学と自分との関係性構築と、広島大学そのものへの帰属心、さらに日本の高等教育・大学の歴史と政策について学問的に、また、啓発的に考える講義を展開しています。今後、

全学必修化を進めていきたいと思っています。

②研　修

研修には、教職員初任者対象のものと、個人情報保護法をきっかけとする文書管理業務に対する研修の二つを考えています。

前者については、広島大学の歴史を中心とするものであり、後者は、平成一七年四月の個人情報保護法の完全施行にともなう、文書管理業務の実務にともなうものであると考えています。以上は、今後の課題ですが、総務部法人文書グループに協力するかたちで進めていきたいと考えています。

2　展示

平成一六年度に次の展示を行いました。

①「旧制広島高等学校の二六年～総合科学部の源流～」展

日時　平成一六年六月四日（金）～一〇日（木）
　　午前一〇時～午後五時
場所　広島大学総合科学部第一会議室
主な対象　一般、在校生、教職員
　　広島大学総合科学部三〇周年記念事業にともない、総合科学部と共催。

②「初代学長　森戸辰男」小展

日時　平成一六年八月四日（水）・五日（木）
　　午後一時～四時
場所　広島大学文書館
主な対象　オープンキャンパス参加者（高校生、教師）
　　広島大学オープンキャンパス特別企画展示の開催
　　なお、展示自体は、七月二六日（月）から八月六日（金）まで文書館にて一般公開。
　　現在ホームページで公開中。

③出張展示「総合科学部の誕生」

日時　平成一六年八月八日（日）午前一二時～午後二時
会場　メルパルク広島
主な対象　卒業生・同窓会
　　第一回総合科学部同窓会総会会場

上記、三つの展示は、「主な対象」欄に記しましたように、大学にとっては、入口から、在校生・教職員という構成員、そして、出口までを対象としています。すなわち、大学に関係した全ての方を対象とし、同時に①②の展示については、地域を中心とする一般の方も対象としています。今年度の場合、広報期間が短かったため、一般の方々への周知が徹底しませんでした。今後の課題としては、広報活動方法の確立が必要であると考えています。

◎常設展示室の重要性

以上の経験を踏まえて広島大学文書館としては、広島大学内に常設展示室を作っていただきたいと要求しています。

常設展示が文書館内に設置されたならば、広島大学が統合移転を行っているために、現在の西条キャンパスで、東千田キャンパスを実感していただく場所として、また、西条キャンパスの全容を、そして、広島大学の学問と人をビジュアルに表現することによって学外者に対する広報能力を有し、同窓生が集う核として、また、学内構成員に対する教育・研修機関としても機能することとなる。

より具体的にいえば、常設展および企画展によって、広島大学学生・教職員はもとより、地域、卒業生および外国からの賓客に対しても、広島大学の概要とその特色を理解させうるものと考えています。卒業生にとっては、自らの学園生活を回顧する場であり、在学生にとってはアイデンティテーを確立する場でもあります。さらに、地域の方々には、地域に根ざす広島大学の実相を、また、海外の方からは、国際社会と共存する広島大学の全体像を理解していただけるでしょう。

上記の①②が企画展示に相当し、常設展示と組み合わせ、さらに③のような出張展示とあわせれば、多くの方々に広島大学をアピールすることができ、より広島大学に対する理解を深めていただけるものと考えています。

3　研究

公文書室および大学史資料室における史資料の整理・保存・公開作業を通じて広島大学文書館は、広島大学に「学問」の基盤を提供するとともに、自ら、この「学問」基盤による「研究」を形成・発展させていきたいと考えています。具体的には、下記の研究会を中心に、進めていきます。

①森戸文書研究会

森戸辰男関係文書の保存・整理・公開を行った森戸文書研究会を新たに再編して文書館のもとに置き、より研究を主体とし、学外の研究者の参加も積極的にもとめていきます。この新森戸文書研究会を核として広島大学文書館を森戸辰男研究の中核センターに致します。そして、『評伝　森戸辰男』を一つの目標としながら、資料集の刊行等を行い、さらなる広がりをもたらしたいと考えております。現在、松下教育研究財団より研究のため新たにご寄付をいただいており、これを基盤として進めてまいりたいと思っています。

②研究会「被爆と復興」

広島における「平和」とは、という問いに対して、多角的なアプローチから一つの答えを引き出し、広島大学における平和研究・教育に一石を投じたいと考えております。

具体的に中核となるのは、初代学長森戸辰男による平和論であり、森戸の平和論を機軸としつつ、原爆投下以降の被爆者と支援者による運動の実証研究（大牟田資料、原医研所蔵平岡文書）、より「復興」「発展」に重点を置いた広島県政を通じた発展・整備（竹下文書）、広島

市政における近代都市広島と「ヒロシマ」の二面性等を通じて、日本における平和構築・「復興」の実証研究を行います。本研究会も、広島大学文書館・平和科学研究センター・原爆放射線医科学研究所の共同作業としながら、広島大学内外から研究者を募り、広島大学文書館所蔵文書を中核とする研究基盤と、平和科学研究センターと原爆放射線医科学研究所の平和と被爆（被曝）に対する研究蓄積を総合し、森戸先生による「自由で平和な一つの大学」の実現に寄与したいと考えております。

おわりにかえて

大学文書館における学問と社会的役割、シンポジウムの趣旨に照らして、本基調講演を整理したいと思います。

以上のような業務を通じて、基幹業務である文書管理、広島大学法人文書の整理・保存・公開作業を中核にすえながら、上述の各種事業を通じて文書学・史料論に基づく「学問」のための基盤整備を行い、「森戸文書研究会」「被爆と復興」研究会などを通じて時に主体となって研究会システムを構築してまいります。

また、広島大学文書館の「社会的役割」としては、閲覧室における広島大学法人文書の公開、照会業務を地道におこなうことで大学の説明責任の任務を果たし、地域貢献事業としての研究、展示、公開講座等を多くの方々に対しておこなっていきます。その上で、広島大学それ自体に対しては、文書管理機関として寄与するとともに、展示と教育・総合科目「広島大学の歴史」を通じて、現在の学生、教職員のみならず、これからの広島大学関係者や、卒業生・同窓会に対するもサービス機関として機能していきたいと考えております。

このことは、広島大学の理念を現実化させていく作業にほかなりません。広島大学文書館は、初代学長森戸辰男先生の作られた理念を守り続ける責務とともに、森戸三原則とその発展上に位置する現在の理念を絶え間なく検証し、その実現を図る、国立大学法人広島大学の個性化を保証する機関であると考えています。

我々広島大学文書館は、広島大学で最も小さい学内共同教育研究施設ですが、国立大学のこれまでと違い、積極的に事業を展開することによって大学に貢献し、貢献することによって更なる事業の展開が出来る基盤を獲得してまいりたいと思っています。

広島大学文書館の設置それ自体が国立大学法人広島大学の理念を守り、個性化を促進する最大の説明責任でありました。今後、広島大学文書館をより発展させることで、「自由で平和な一つの大学」である広島大学のさらなる実現に寄与していきたいと考えています。

（こいけ　せいいち・広島大学文書館長）